

平成 29 年度 第 5 回 COC 実施本部会議 議事録

平成 29 年 11 月 29 日 (水)

16 : 30 ~ 17 : 10

場所 : 本部大会議室

出席者 : 清水学長、齋藤教育開発センター長、橋本学生部長、大島研究開発推進センター長、木村企画部長、森地域連携推進担当課長、山村学生支援部長、中井教務担当課長

※欠席 : 西谷事務局長

【議 題】

1. 平成 29 年度 CLL 活動について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より説明がなされた。

①新規、継続の CLL 活動

- ・(継続) 国崎二船祭プログラム

実施主体 : 鳥羽市国崎町町内会 担当教員 : 齋藤教授

COC 実施本部会議が開催される前 (11/23) の CLL 活動であったため起案書決裁済。

1 月 20 日に東海テレビ「^{まつりびとだまし}祭人魂」にて放映予定。

- ・(新規) 新聞カフェ

実施主体 : 中日新聞社 担当教員 : 齋藤教授

新聞を教育にいかす取組である「NIE」の活動と関連させながら、実際に新聞を読み論点をしぼりながら議論する。

- ・(新規) 「学生」×「地域」の活動発表会「みえまちキャンパス」実行委員会

実施主体 : 高等教育コンソーシアムみえ地域貢献部会 担当教員 : 池山助教

今年度から高等教育コンソーシアムみえ地域貢献部会が主体として地域活動している学生を紹介する取組で 2 月 12 日に開催を予定。企画、運営を行う。

②参加学生 (学校行事参加者) 追加

別添の一覧表にて提示し、下記三箇所を訂正する。

- ・ 1 ページ上から 4 人目の活動名 (誤) 伊勢志摩国立公園指定 70 周年事業実行委員会
⇒ (正) あばばい～伊勢志摩国立公園学生会～
- ・ 1 ページ上から 5 人目の活動名 (誤) 伊勢志摩国立公園指定 70 周年事業実行委員会
⇒ (正) あばばい～伊勢志摩国立公園学生会～
- ・ 2 ページ上から 7 人目の学科名 (誤) 国史 ⇒ (正) 教育

平成 29 年 11 月 29 日現在で活動数は 28、参加人数は延べ 260 名である。

今年度の活動目標数は 25 活動であり達成したといえる。

③平成 29 年度 CLL 活動年度末報告会

平成 30 年 3 月 9 日 (金) 13 : 30 ~ を予定していたが、清水学長、木村次長の両名が常勤理事会出席のため、3 月 8 日 (木) 13 : 30 ~ で再検討する。

審議の結果、異議なく了解された。

2. その他

特記事項なし

【報 告】

1. 平成 31 年度カリキュラムについて

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より報告がなされた。

- ・伊勢志摩共生学
- ・伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅰ
- ・伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅱ
- ・伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅲ（6次産業化実践論）
- ・伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅳ（1, 2, 3次産業基本論）
- ・伊勢志摩共生学実習A（互換はクラス対応）
- ・伊勢志摩共生学実習B（互換はクラス対応）
- ・プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ → COC教員のかかわり方を検討する
- ・伊勢志摩定住自立圏共生学副専攻

共通科目に位置付けている上記「定住自立圏」の関係科目は、科目名の変更を地域課題学修支援室会議にて議論したが、伊勢市の「定住自立圏構想」は第二期として継続が決定しているとのことで、引き続き科目名も「定住自立圏」を謳っていくということに致したい。科目ⅢⅣについては、現在の科目Ⅳから説き始める方がよいということでⅣを科目Ⅲ（6次産業化実践論）にし、現在の科目ⅢをⅣ（1, 2, 3次産業基本論）とする。共生学実習はこれまでの内容と学生の履修状況を見て2種類を設けてクラス対応とする。プロジェクト研究ⅠⅡⅢⅣについてはCOC教員のかかわり方を検討。

< 質疑応答 >

(問) プロジェクト研究はⅠⅡでは？

(答) セメスターに分けるためⅠⅡⅢⅣとなる。

伊勢志摩定住自立圏共生学副専攻はそのまま継続する。

< 質疑応答 >

(問) 国の方針である地方創生学と名付け、副題に伊勢志摩定住自立圏共生学としてはいかがか？

(答) 地方創生というとCOC+の方がどちらかというと意味合いが強い。定住自立圏構想は、連携市町が共通する課題を共同し取組し合うことに重点がある。地方創生という大きなくくりにしてしまうと何を目標しているのかが見えにくくなるので、より具体的な定住自立圏を残したい。3市5町と引き続き連携していく上で、定住自立圏構想に基づいて自治体に説明がしやすく職員を派遣していただきやすい。特に、科目ⅠⅡは自治体の方々との協働の元に成り立っている。また、全ての印刷物やホームページを変更しなければならない

2. 履修証明プログラム名称について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より報告がなされた。

平成 30 年度から開始する。

①プログラム名称：伊勢志摩で共に暮らす

②構成科目（以下の表）

科目名	開講学期	単位	担当者（敬称略）	備考
伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅰ	春	2	オムニバス	共通科目
伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅱ	秋	2	オムニバス	共通科目
伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅲ	秋	2	オムニバス	共通科目

伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅳ	春	2	オムニバス	共通科目
グローバル化と地域の経済社会	春	2	オムニバス	共通科目
地方自治論	春	2	富永 健	現代日本社会学科
地域再生論	春	2	岸川 政之	現代日本社会学科
公共政策論	秋	2	岸川 政之	現代日本社会学科
産業社会学雇用政策	春秋	2+	笠原 正嗣	現代日本社会学科
地域社会論	秋	2	筒井 琢磨	現代日本社会学科

当初原案では、演習科目である障がい者雇用について考える科目「雇用政策」を想定したが、笠原先生から「産業社会学」の方がより地域に根差した内容になっているとの申し出があり切り替える。この中から120時間（1科目21時間であるので6科目）を履修。聴講の方のニーズや時間割の都合を考慮し平成30年度は縛りを設けず募集をかけたかと考えている。

3. 学修成果評価アンケート集計結果の評価目標数値の設定について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より報告がなされた。

科目ⅠⅡⅢⅣ履修学生に対し学修成果評価アンケートを実施しているが、外部評価委員から評価目標を設けてはいかがかと助言があり、既に達成しているものも含めて以下のように数値目標を掲げる。

「伊勢志摩定住自立圏共生学」Ⅰ～Ⅳの評価目標値を、平成30年度（完成年度）までに、

Ⅰ～Ⅳ {学修・教育目標A・B} 認知的領域：知識・理解・・・「現況を他者に説明できる」「課題を他者に説明できる」を10%目標に。

Ⅰ～Ⅳ {学修・教育目標C・F} 情意的領域：関心・意欲・学修姿勢・・・「話し合いの場での傾聴、建設的ディスカッション等を毎回できた、ほぼできた」を70%目標に。

Ⅰ・Ⅱ {学修・教育目標D・E・G} 技能的領域：スキル・・・「地方創生の取り組みを評価し、その手法及び技術について説明できるようになったか」との問いに対し、“8市町について一つはある” “一部の市町についてある” の回答を合わせて70%を目標に。

Ⅲ・Ⅳ {学修・教育目標D・E・G} 技能的領域：スキル・・・「地域産業振興や経営管理等の取り組みを評価し、その手法及び技術について説明できるようになったか」との問いに対し、“複数ある” “一つはある” の回答を合わせて70%を目標に。

平成31年度より教育開発センターで新たなアンケート形式で集計したい。記名式で、他のものとも連動させながらIRの材料として考えていく。

4. その他

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より報告がなされた。

①第5回三重大学・皇學館大学合同シンポジウム

平成29年12月17日（日）13時～ @鳥羽商工会議所

シンポジウムのテーマは“地方創生と大学の役割を伊勢志摩から考える”。本学が担当で、CLL活動に参加している学生にも出席するよう声かけをしていきたい。

(添付資料として)

第4回COC実施本部会議にて既にシンポジウムの報告を終えているが、報告書が完成したのでお渡しする。

- ①第3回皇學館大学 地（知）の拠点整備事業 公開シンポジウム報告書
- ②平成29年度 CLL中間報告書

平成29年度 第6回COC実施本部会議は、平成29年12月27日(水)に本部大会議室で開催されることが確認された。